

授業科目	運動器疾患・スポーツ傷害身体障害支援学特別研究				
担当者	佐藤睦美				
実務経験者の概要					
学科名	保健医療学研究科	学年	1年～2年	総単位数	10単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

身体障害支援学特論、特論演習で学修した知識や臨床推論能力をもとに、高度専門職業人として社会で活躍していくための学修の成果として「修士論文」あるいは「課題研究の成果」の完成を目指す。「修士論文」や「課題研究の成果」は、修士号を得るための一つの過程ではなく、その成果が直接、社会に還元できるものにする。身体障害支援学特論、特論演習で学んだ知識、技能をさらに深く学修しながら、研究を通じて現場に成果を還元する「修士論文」、科学的根拠ある臨床経験を設定課題に沿ってまとめる「課題研究の成果」の作成を指導する。

修士論文：運動器疾患による身体障害にかかる研究を通じて専門領域を深化させ現場に還元できる研究成果を目指す。研究テーマは、その成果が大学院修了後に現場における生活機能支援に還元できるものとする。また「修士論文」は、学生の職域における学術的特色や独創性、貢献度などを求める。なお、研究指導の過程で、当該学生の修士論文に該当する研究方法論や研究倫理を指導する。例：研究課題として、「膝十字靭帯再建術後に膝へのストレスが少ない着地動作」をフォースプレートによる運動力学的解析および筋電計による電気生理学的分析、その他の工学的手法を用いて分析するなどが考えられる。

課題研究：運動器疾患による身体障害にかかる臨床・臨地の実践から導き出された生活機能支援に有用な介入や活動あるいは臨床・臨地実践の疑問を解決する方法論を科学的根拠に基づき考察し、「課題研究の成果」にまとめる。「課題研究の成果」は、課題テーマに沿った3症例以上を臨床現場で選択して実践介入し、そこから得られた知見を症例報告としてまとめる。3症例の実践経験から得られた知見を統合し、課題テーマを解決する結論へと導き、「課題研究報告書」にまとめる。「課題研究報告書」は、実際に展開された臨床的推論の明確さ、介入等による変化についての論理的・科学的考察、現場に直結する結論などを求める。なお、課題研究指導の過程で、当該学生の課題研究に該当する研究方法論や研究倫理を指導する。

■ 到達目標

修士論文

- ・ 専門領域の研究テーマについて文献の適切な収集、必要な実験・調査の的確な方法論構築ができる。
- ・ 研究結果について、論理的思考ができ、その思考を論文にまとめることができる。
- ・ 研究成果についての的確にプレゼンテーションできる。
- ・ 研究成果を社会に還元する術を説明できる。

課題研究

- ・ 専門領域の課題テーマについて文献の適切な収集、科学的根拠に基づいた介入実践ができる。
- ・ 介入実践の経過や結果を論理的に考察でき、その思考を報告書にまとめることができる。
- ・ 課題研究の成果についての的確にプレゼンテーションできる。
- ・ 課題研究の成果を社会に還元する術を説明できる。

■ 授業計画

(修士論文)

- 第1回～第15回 研究遂行に必要な研究方法論と研究倫理を指導する
研究テーマの関連文献収集と整理および取り扱う分野における最新情報把握
関連文献や先行知見をもとに研究デザインを考え、研究計画書原案を作成する
- 第16回～第30回 ディスカッションを繰り返し、研究計画書を作成する
研究計画書に基づき予備実験や予備調査を実施して研究計画の妥当性を検討、研究計画書を作成させる
完成させた研究計画書を研究科委員会および研究倫理委員会へ提出、発表する
- 第31回～第45回 研究計画書に基づき実験、調査または臨床試験を実施してデータを収集する
収集したデータを解析して論理的な解釈を行う
- 第46回～第60回 中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する
軌道修正を行いながら、実験、調査、臨床試験を実施してデータ収集を継続する
収集したデータを解析して論理的な解釈を行い、論文を執筆する
- 第61回～第75回 論文執筆とともに、追加実験、再分析、文献再収集等、必要な対策を実施する
論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける

(課題研究)

- 第1回～第15回 課題研究遂行に必要な研究方法論と研究倫理を指導する
課題テーマの関連文献収集と整理および取り扱う分野における最新情報把握
関連文献や先行知見をもとに臨床・臨地活動の方法も含めて課題研究計画書原案を作成する
- 第16回～第30回 ディスカッションを繰り返し、課題研究計画書を作成する
課題研究計画の臨床・臨地活動との整合性を検討、課題研究計画書を作成させる
完成させた課題研究計画書を研究科委員会および研究倫理委員会へ提出、発表する
課題研究計画書の承認後、臨床・臨地での活動を開始する。
- 第31回～第45回 臨床・臨地現場における実践を積極的に実施し、課題テーマの考察を深める
臨床・臨地活動の成果として課題研究の基盤となる3例以上の症例報告をまとめる
- 第46回～第60回 中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する
軌道修正を行いながら、臨床・臨地活動を実施して課題テーマの考察を継続する
3例以上の症例報告をもとに考察した課題テーマを整理し、論理的な解釈を行い、報告書を執筆する
- 第61回～第75回 必要に応じ臨床・臨地活動を継続して、現場に還元する知識・技能を整理、報告書を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける

■ 評価方法

- 修士論文：研究過程と修士論文の内容を総合的に勘案して評価する。
課題研究：3例以上の症例報告書および課題研究報告書の内容によって評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

修士論文、課題研究いずれにおいても、先行研究を十分に渉猟し、科学的根拠に基づいた論文、報告書を作成するよう心がけて欲しい。
また、修士論文においては、統計学的解析手法についても自己学習を進めておくこと。
具体的な学習の内容については、適宜指示をする。

■ 教科書

■ 参考図書

書名：適宜紹介する。

■ 留意事項

--

■ 講義受講にあたって

--